

次 代 へ の 願 望

樋 口 芳 朗*

Kasame Chatikavanij 総裁のこと (写真-1)¹⁾

タイ国発電公社²⁾ (Electricity Generating Authority of Thailand 通称 EGAT) の総裁を約 10 年³⁾やっている実力者が、技術相談にあずかった私たち四人に謝意を表するため招待してくれるという話で、陽気なアメリカ人のようにひょうきんなオーストラリアのピンカートン氏もネクタイを直しながら

「もっと地味な背広を持ってくるんだった」とホテルの玄関でこぼしておりました。

ところで迎えの車がきてびっくりしたのは総裁自らベンツを運転してアロハシャツで現われたことです。一昔前見なれていた古い形式のあらゆる日本製中古車が傷だらけでぶっとばしており、バスまで歩合制とかでせかせかしているバンコク、混乱に拍車をかけるよう機敏に大道を横切る大衆や物売りの子供、こんなのを見ていると「交通の行づまりで崩壊する世界の大都市があるとすると、その第一番目はバンコクであろう」といった交通工学の権威の言葉が直感的に把握できます。この、人をまじえた車の雑踏の中でダイナミックに車を操りながら適当に話し掛けて座を持たせる人間性と才気煥発ぶりには本当に感心いたしました。ラウンジでダム工事の問題点につき要領を得た質問をした後は、まったくだけた話に

戻って食事に移り、ワインやコニャックもだいぶ付き合われたと思ったのに、長い食事が終わってホテルまで帰る途中の運転ぶりと話の煥発ぶりはいよいよ冴えておりました⁴⁾。Kasame 夫人は大会社の社長を二、三兼ねていてご主人より高収入であり、世界中を飛び回っておられるそうですし、令息はアメリカ合衆国の大学で修行中とのことでした。

海外の政財界の有力者が、わが国の有力者にあきたらないとしていることを指摘した新聞記事を読んだことがあります。話が面白くなって魅力がない、かんじんの話がほとんど決まらない……などと、いろいろあげたあげくに、どうしてこんな人たちが日本では偉くなるのだろうかといった手きびしい批判でした。語学のハンディが予想以上に大きくひびくことが、まず指摘されなければなりませんし、後で述べるように<個人でなく組織で仕事をする国情>の相違もきわめて大きいので、このような点をあげて一方的なこの種のきめつけ方に反論することは容易と思われれます。しかし、それでもこれから本当に存在価値のある土木技術者になろうと志す若い方々に望みたいことは、ユーモアと思いやりのある人間性で人をひきつける能力を持ち、専門のかんじんなことについては実質的なことを自分一人で質問し理解でき答える能力を備えてほしいということです。国際的に通ずる技術者になろうとすると、以上に加えて練達の語学力を要求されるわけですから小生などがこんな希望を出すのは、ぐ

* 正会員 工博 東京大学教授 工学部土木工学科



写真-1 K. Chatikavanij
総裁

うぐう眠りながら「起きてよく働け」と大いびきでどなっているたぐいでしょうが、厚顔至極にもあえて自分のできなかったことを希望したくなったのは、Kasame 総裁に象徴される外国指導者の人間性と才気煥発ぶりに刺激されたからだけではありません。

組織力に頼ることの功罪

国際会議に出席する顔ぶれについて、外国では各会議ごとにボスがいてほとんど変わらないのに、わが国では目まぐるしく変わることが指摘されてきました。ここでも、外国が個人単位で動き、わが

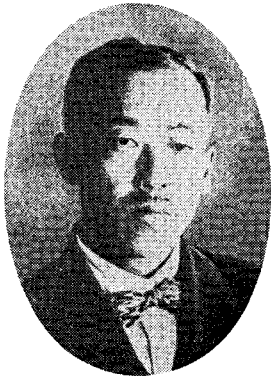


写真-2 樋口 操

国は組織単位で動くことが端的に示されているわけであり、わが国の国際的発言力が不相応に弱い状態にとどまらざるを得ない一因となっております。日本的組織力⁹⁾に頼ることのメリットは、鉄・自動車その他の工業製品のダイナミックな世界制覇ぶりに明瞭に現われており、わが国の有力者の<無能(?)ぶり>にいくぶん甘い舌打ちをした外国の有力者は、それでもなだれや洪水のように押し寄せてくる日本製の自動車やテレビに、さぞ苦い舌打ちをしてきたことと思います。また、一昔前は<罪>の面だけ強調されていたわが国の年功序列制や終身雇用制が、欧米で再評価され始めたというニュースも、組織力を巧みに生かすわが国の智慧の優れていることを実証したといえそうです。とかく批判のある天下りと高級官僚の若年退職も組織を若くダイナミックに保つためには最上の智慧といえるかも知れません。

しかしながら、わが国独特の甘えと、ある種の締め付けに基づいた組織依存のやり方が国内では盲く作動し、その成果として生まれる高度の工業製品が競争力抜群であるにしても、完成品として外国に持ち込むことが不可能であり、外国で活動し完成しなければならない土木工事になると、事態が根本的に異なってくる点に問題があると思われます。

本誌1月号の赤木俊允氏の所論⁹⁾や、同じく本誌3月号の本木正次氏の所論⁷⁾は、いささか目ざわり耳ざわりな点もないわけではありませんが、国際的には通用しそらない、わが国の一面をついておられることは確かです。これからのわが国を背負う若い土木技術者はぜひ以上の二所論を読まれるとともに、「国際化時代と海外協力」を特集した1月号で発言しておられる頼もしいさむらい先輩たちを、かみしめていただきたいと思います。土木建設の大ブーム再来を国内で期待することは今の日本の空気ではちょっと難しく、大土木工事に全身を打ち込もうとすれば海外に出るのが近道になるでしょうし、国内の土木工事にしても、鉄や自動車でかせいでもらった貴重なお金を花見酒的に無意義に使うのではなく、長い目で見た場合、必ず国民のためになるという誇りの持てる工事としていこう、組織に頼ることの<功>はできるだけ温存する反面、一人一人が寄生的でなく本当に組織を支える存在になっていこう——こういった決意をしていただくことは基本的に重要と思われる。

誇りある生涯を

土質力学の父テルツァーギは「構造物の基礎に栄光はない」と言いました。また、パリのメトロの父ピアンプニユは「地下構造物はその作者に対して恩知らずであり完全に成功したらその作者は言葉にのぼることもない」と言っております。ある意味で本来の土木技術者は「天に宝を積み⁸⁾」的な心境を必要とする運命を背負っています。天に宝を積みむためには、それ相応の誇りで支えられなければならないのは当然であり、本当の土木技術者は、胸を張ってもっと誇りを要求するべきではないでしょうか。私事にわたって恐縮千万ですが、35,6才ころとったと推測される小生の父操(写真-2)をごらん下さい。ちょうちん行列と旗行列のもとに大正末期から昭和初頭にかけて、全国鉄道網¹⁰⁾を建設していった誇り高き男の姿がそこにあるとは見えないでしょうか¹⁰⁾。

最後に見次元は低そうですが、実は一番大事なお願いをしておきたいと思います。それは、困難に耐えながら大きな仕事を完成してゆくことを誇りとし、最大の喜びとすると同時に、健康に注意する人並みの良いおやじであってほしいということです。医療ミスが重なり、満で38才に満たない生涯を肌寒い北九州の病院で終えた小生の父は、もうまともにしゃべれなくなった死の直前に生前不和であった祖父から、裁判をしても財産を分けてもらえと言ったそうです。満州事変に突入して騒然とした動乱の世の中に、遺産も何もなく四人の幼い子供を残して世を去ってゆくときの心事を忖度すると、無頼冷

血の小学生も涙を覚えます。森田国暢さん、川口輝夫さん、粕谷逸男さん、伊崎晃さん、進藤卓さん、……と、親しかった人びとで若死にされた方々は本当に心がきれいでした。神様はきれいな人を早くお呼びになるというのは本当かも知れません。しかし、残された遺族のことを考えると、たとえきれいさが少なくても決して若死になどはしない、そして「俺はこういうプラスの仕事をしてきた」という確かで誇らしい満足を持ちながら生涯を終ろう、ぜひこう決意していただきたい——これを最後のお願いとして拙文を終わります。

筆者注

- 1) 総裁は president でなく、general manager と呼ばれている。Kasame 氏は中国系タイ人で電気技術者である。写真-1 は村上省一電源開発理事のご好意で入手したものであり、アロハ姿のものではない。
- 2) 三国英四郎博士が、本誌の1月号で「タイ国水力発電工事」と題し、バンチャオネン工事監理事務所長としての貴重な体験談を述べておられる。
- 3) 合併により EGAT が発足したのは 1969 年 5 月である

が、Kasame 氏は 1957 年以来、合併前の主力社の長であった。

- 4) 精神・物質の両面で圧倒されたあげく今度は 終わるまで大丈夫かなと思ったおなかの具合がおかしくなりました（まことに情ない限りである）。
- 5) 海外に悪名高き MITI（通産省）の行政指導から企業の一家意識まですべてを含む。
- 6) 赤木俊允：国際性のある大学教育を、土木学会誌、1976 年 1 月号、pp. 63~65.
- 7) 木本正次：素人のたわごと、土木学会誌、1976 年 3 月号、p. 58.
- 8) マタイ伝 “Lay up for yourselves treasures in heaven”
- 9) 信濃川発電工事を手始めに中国・四国の南北連絡、旧丹那トンネル、北海道、中国、九州の鉄道工事に従事。
- 10) 一昔前、うちのチビが私より 10 才以上若いおやじの写真を見て「おじいちゃんのほうが、お父ちゃんよりずっとえらそうだな」と言ったことがある。バカが自乗つきそうにほどバカ正直だったおやじを思い出して、罰則さえなければ、なんでも仕出かしそうなのが身をふり返って絶句した。沼田政矩先生と同時に東大に入ったおやじは、飲むほうが勉強より好きだったらしく、1 年遅れで卒業している。ひたいには、麻酔なしで縫合わせた大きい落石きずがあった。

土木学会海外活動委員会編

海外建設工事の契約・仕様 エンジニアリング関係 理解のために

A・552 ページ 6 000 円 会員特価 5 400 円（〒 250 円）●学会または全国主要書店へ●

交通騒音

Richard H. Lyon 著
松本嘉司(東大教授)他 訳

交通騒音に関する現在までの知識をほぼ、完全に集めたもので、基本的音響理論、技術的計算方法から、航空騒音、自動車騒音、鉄道騒音等の発生、伝搬、影響など各国、各学問分野における豊富なデータを収録し、詳細に解説。また地域社会との関係についても、工学、心理学、社会学など学際的な検討も加えている。

(A 5・320 頁・定価 3,500 円)

廃水処理プロセス ●設計理論と実験法

エッケンフェルダール/フォード共著 松井三郎(福井大教授)他 訳
研究室やパイロットプラントでの実験を基礎に産業廃水や都市下水等の処理プロセスをいかに設計すればよいかを明らかにする現場技術者のための指導書。(A5・2,500 円)

既存建物の構造診断法

清水建設株式会社研究所編 B 5・4,000 円

耐震性、耐火性など既存建物の構造診断における調査マニュアルを 44 項目に分けて作成し、調査結果に対する判断基準を設け、客観性の高い評価方法を確立した実務書。

コンクリート便覧

日本コンクリート工学協会編
A 5・15,000 円

採石ハンドブック

資源エネルギー庁長官官房鉱業課監修
A 5・15,000 円

業務交通体系論

渡部与四郎著<日本都市計画学会賞受賞>
A 5・3,000 円

景観の構造

ランドスケープとしての日本の空間
樋口忠彦著<石川巖助賞受賞>
B 5・2,500 円



技報堂出版

東京都港区赤坂1-11-41・第1興和ビル
☎ (03) 585-0166 (代)